
日本ライフライン株式会社
2007年3月期決算説明会
2007年5月29日

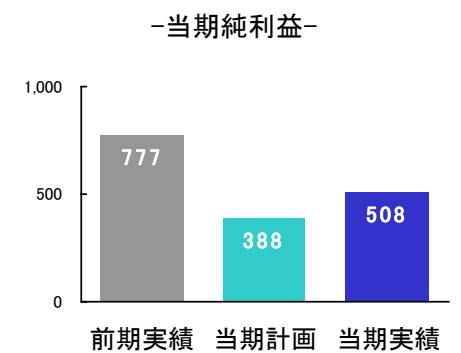
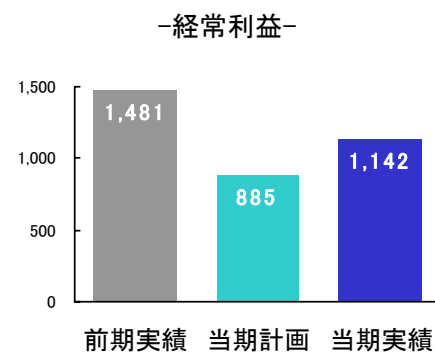
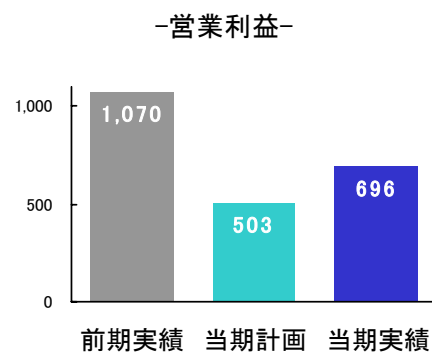
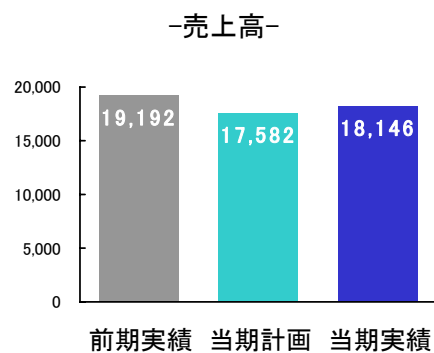
... for patient comfort.

2007年3月期決算報告 2008年3月期業績予想

取締役管理本部長
政次 浩二

2007年3月期業績

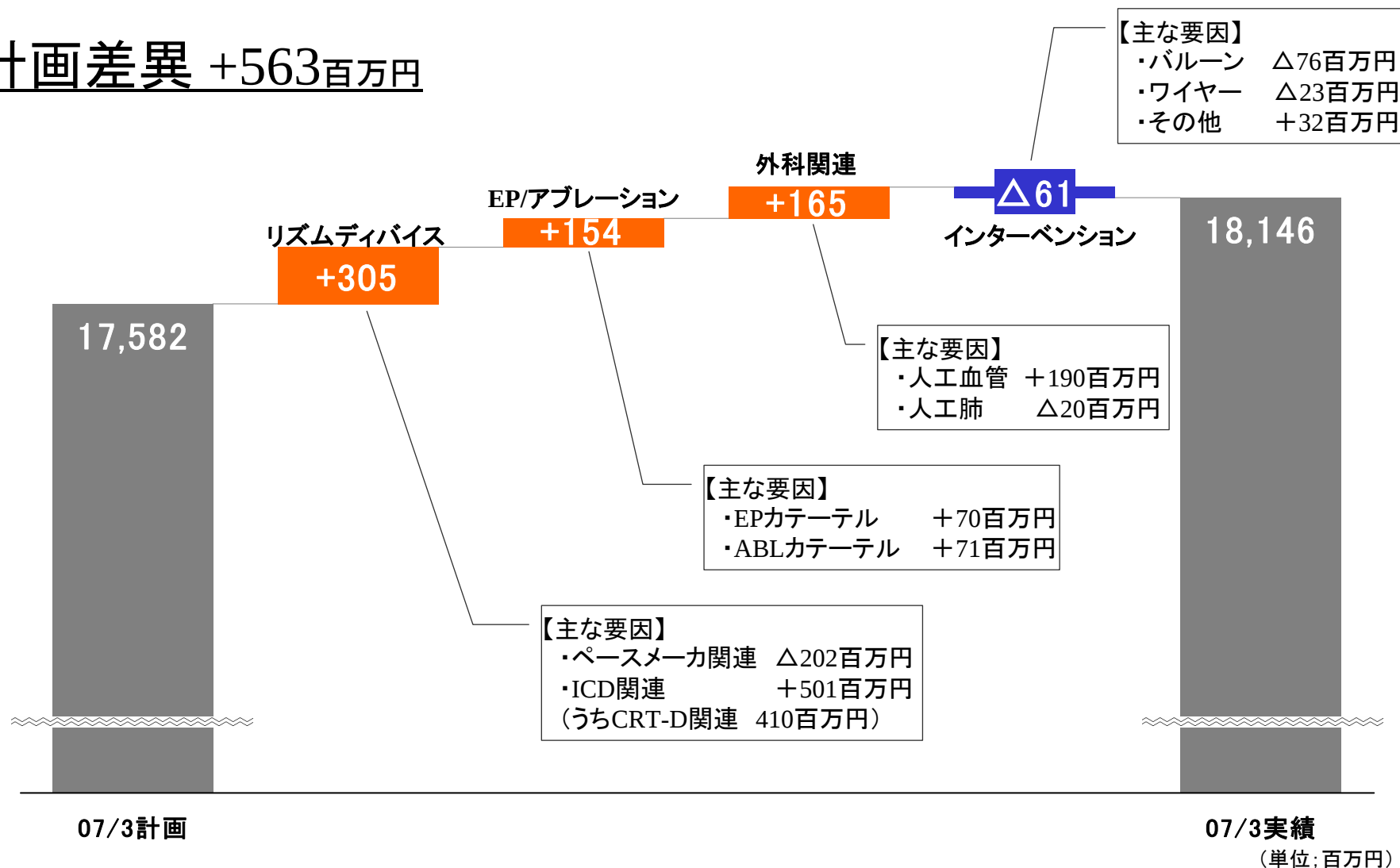
(単位:百万円)	2007/3 実 績	2007/3 計 画	計 画 比		2006/3 実 績	前 年 同 期 比	
			増 減 額	増 減 率		増 減 額	増 減 率
売 上 高	18,146	17,582	563	3.2%	19,192	△1,046	△5.5%
営 業 利 益	696	503	192	38.2%	1,070	△373	△34.9%
経 常 利 益	1,142	885	257	29.0%	1,481	△338	△22.9%
当期純利益	508	388	120	31.0%	777	△269	△34.6%



(単位:百万円)

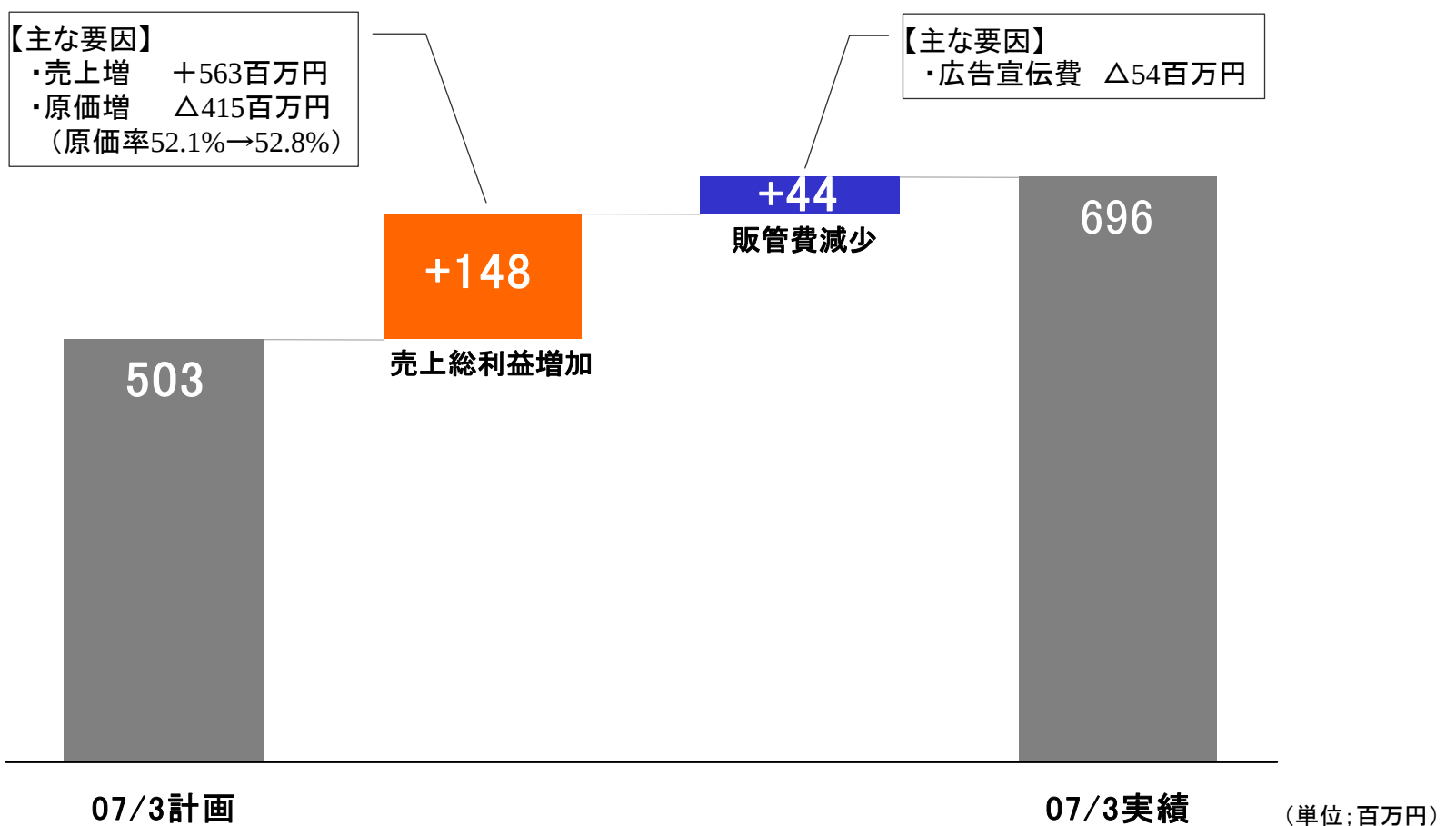
計画差異要因－売上高

計画差異 +563百万円

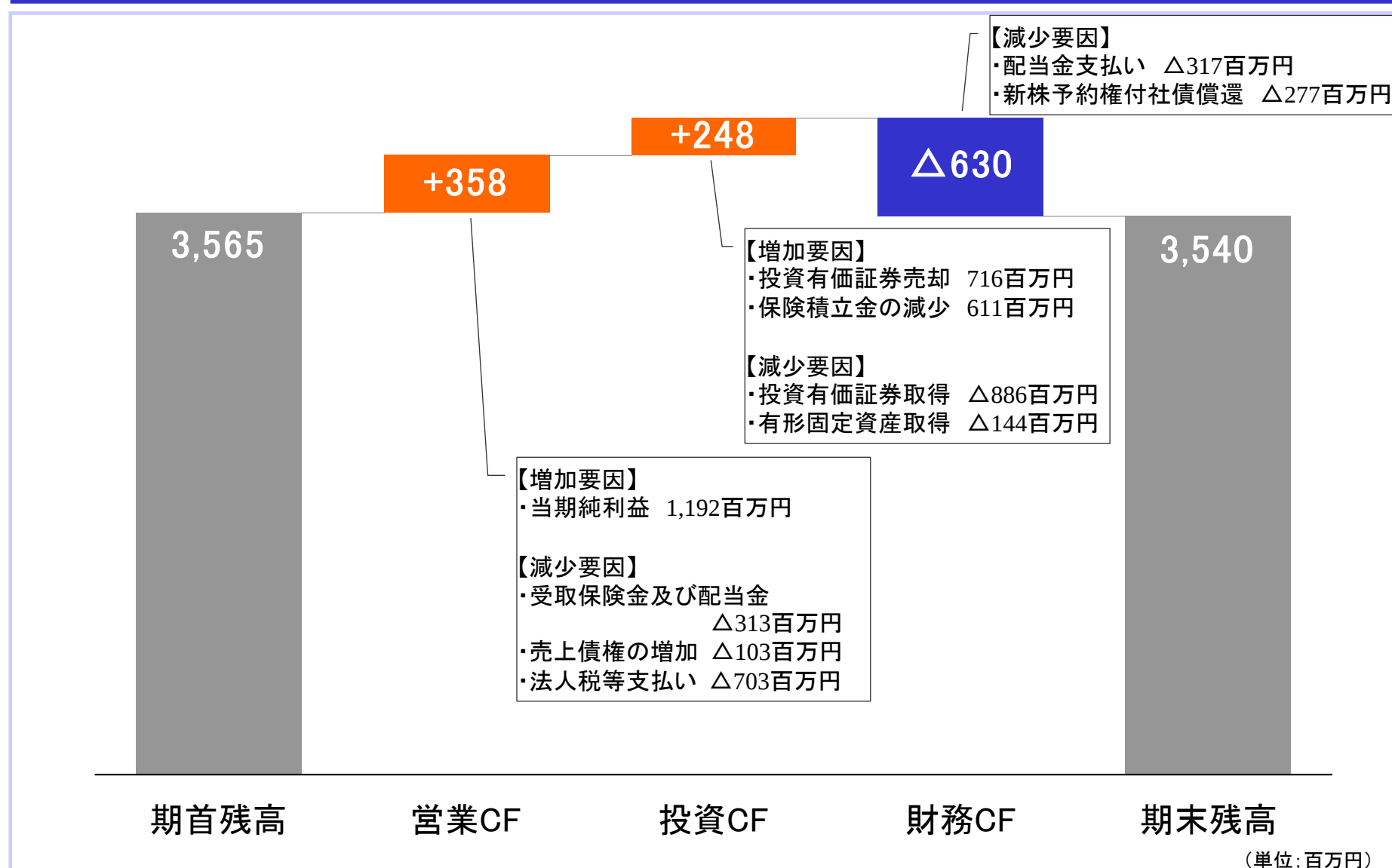


計画差異要因－営業利益

計画差異 +192百万円

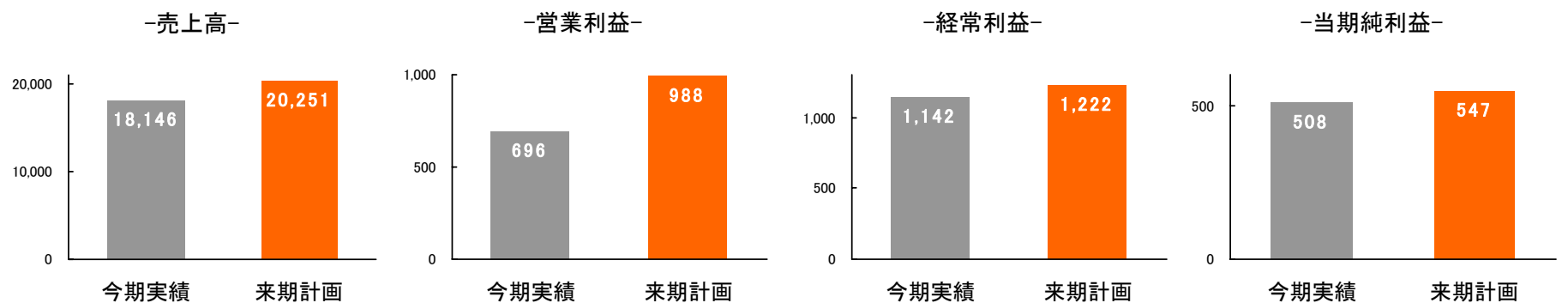


2007年3月期実績－キャッシュ・フロー



2008年3月期計画

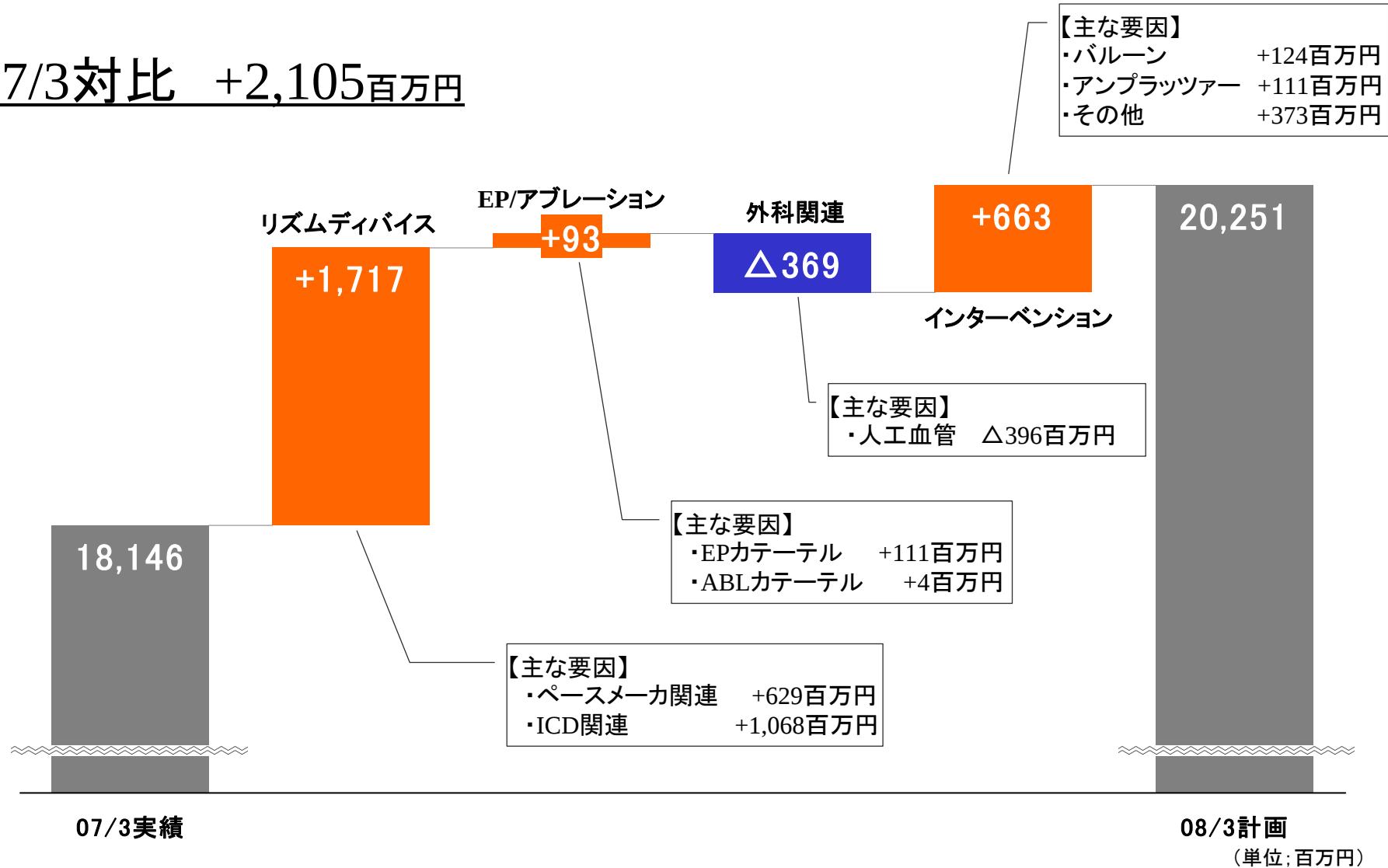
(単位:百万円)	2008/3計画		2007/3実績		差 異	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売 上 高	20,251	100.0%	18,146	100.0%	2,105	11.6%
営 業 利 益	988	4.9%	696	3.8%	292	42.0%
経 常 利 益	1,222	6.0%	1,142	6.3%	80	7.0%
当 純 期 利 益	547	2.7%	508	2.8%	39	7.7%



(単位:百万円)

2008年3月期計画－売上高

07/3対比 +2,105百万円



2008年3月期計画－営業利益

07/3対比 +292百万円

【主な要因】

- ・売上増 +2,105百万円
- ・原価増 $\Delta 1,628$ 百万円
(原価率52.8%→55.3%)

+477

売上総利益増加

$\Delta 184$

販管費増加

【主な要因】

- ・減価償却費 +70百万円
- ・コンピューターソフト費用 +31百万円
- ・賃借料 +20百万円
- ・広告宣伝費 +18百万円
- ・地代家賃 +17百万円

988

07/3実績

08/3計画

(単位:百万円)

補足データ

(単位;百万円)	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3(予)
設 備 投 資 額	190	173	271	144	217
減 価 償 却 費	278	223	211	150	221
研 究 開 発 費	110	151	257	202	227
期 末 従 業 員 数	328名	346名	364名	370名	401名

(資料)要約損益計算書

(単位:百万円)	2007/3実績				2008/3(予)					
	中間期		通 期		中間期			通 期		
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	前期比	金 額	構成比	前期比
売 上 高	8,701	100.0%	18,146	100.0%	9,944	100.0%	14.3%	20,251	100.0%	11.6%
売 上 原 価	4,617	53.1%	9,575	52.8%	5,562	55.9%	20.5%	11,203	55.3%	17.0%
売 上 益 総 利	4,083	46.9%	8,570	47.2%	4,381	44.1%	7.3%	9,047	44.7%	5.6%
販 管 費	3,820	43.9%	7,874	43.4%	4,048	40.7%	6.0%	8,059	39.8%	2.3%
営 業 利 益	263	3.0%	696	3.8%	332	3.3%	26.1%	988	4.9%	42.0%
営 業 外 収 益	326	3.8%	467	2.6%	231	2.3%	△29.2%	255	1.3%	△45.3%
営 業 外 費 用	12	0.1%	21	0.1%	10	0.1%	△12.1%	21	0.1%	1.2%
経 常 利 益	577	6.6%	1,142	6.3%	552	5.6%	△4.3%	1,222	6.0%	7.0%
特 別 利 益	36	0.4%	111	0.6%	—	—%	—%	—	—%	—%
特 別 損 失	23	0.3%	61	0.3%	10	0.1%	△55.0%	10	0.1%	△82.2%
税 前 利 益	590	6.8%	1,192	6.6%	542	5.5%	△8.1%	1,211	6.0%	1.6%
法 人 税 等	318	3.7%	684	3.8%	293	3.0%	△7.8%	664	3.3%	△3.0%
純 利 益	271	3.1%	508	2.8%	248	2.5%	△8.5%	547	2.7%	7.7%

(資料)セグメント別売上高

(単位:百万円)	2007/3実績		2008/3(予)				備考
	中 間	通 期	中 間		通 期		
	金 額	金 額	金 額	前 期 比	金 額	前 期 比	
ペ ー ス メ ー カ 関 連	3,859	7,609	4,118	6.7%	8,238	8.3%	
I C D 関 連	591	1,601	1,294	118.8%	2,670	66.7%	CRT-D含む
そ の 他	24	50	34	39.3%	69	38.6%	
リ ズ ム デ ィ バ イ ス 計	4,475	9,261	5,446	21.7%	10,978	18.5%	
E P カ テ ー テ ル	535	1,099	584	9.1%	1,211	10.1%	自社製造製品
A B L カ テ ー テ ル	703	1,468	734	4.4%	1,472	0.3%	自社製造製品
そ の 他	36	76	27	△24.4%	54	△28.9%	
E P / A B L 計	1,274	2,644	1,345	5.6%	2,738	3.6%	
人 工 弁	538	1,063	534	△0.7%	1,102	3.6%	
人 工 肺 関 連	260	492	231	△11.3%	482	△2.0%	
人 工 血 管	1,245	2,704	1,103	△11.4%	2,307	△14.7%	
そ の 他	0	1	—	—%	—	—%	
外 科 関 連 計	2,045	4,261	1,869	△8.6%	3,892	△8.7%	
バ ル ー ン	586	1,183	640	9.2%	1,308	10.5%	
ガ イ ド ワ イ ヤ ー	216	448	244	13.0%	501	12.0%	自社製造製品
ア ン プ ラ ッ ツ ァ ー	71	197	145	101.8%	309	56.2%	
そ の 他	30	149	251	718.5%	522	250.9%	フィルトラップ含む
イ ン タ ー ベ ン シ ョ ン 計	905	1,978	1,281	41.5%	2,642	33.5%	
合 計	8,701	18,146	9,944	14.3%	20,251	11.6%	

課題と展望

代表取締役社長
鈴木 啓介

中長期の課題

◆リズムデバイスの売上拡大

- －収益基盤の安定化

◆自社製造製品の拡充

- －自社製品比率20%

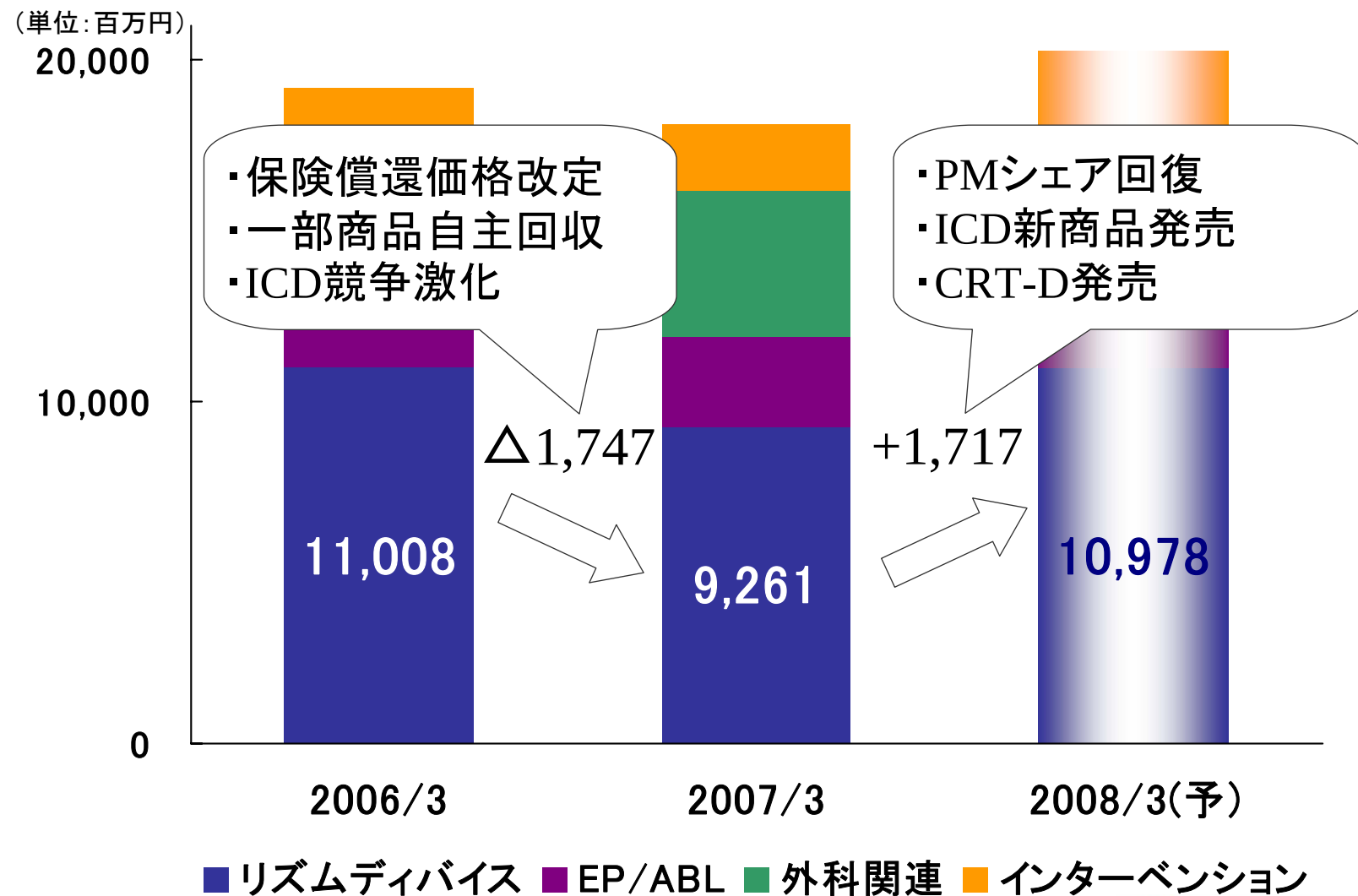
- －利益面での寄与

◆商品パイプラインの確保

- －継続的な新商品投入

- －オンリーワン商品による他社との差別化

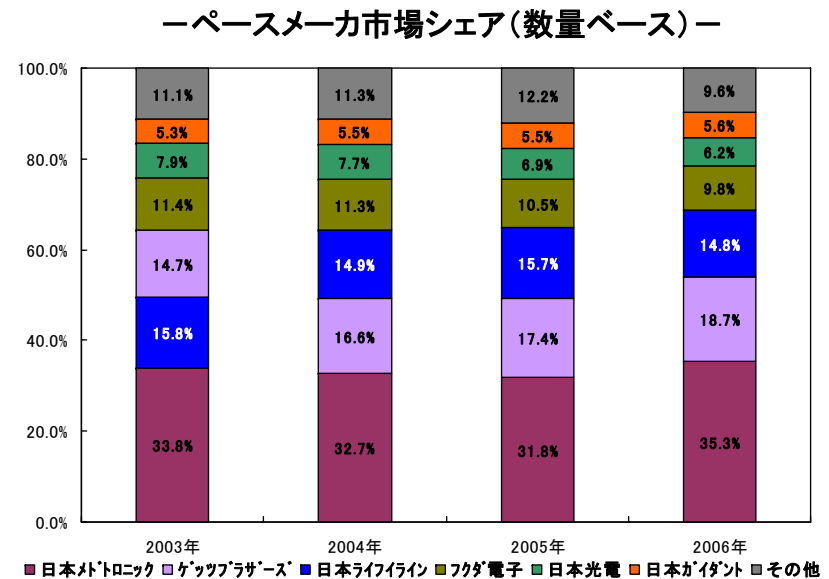
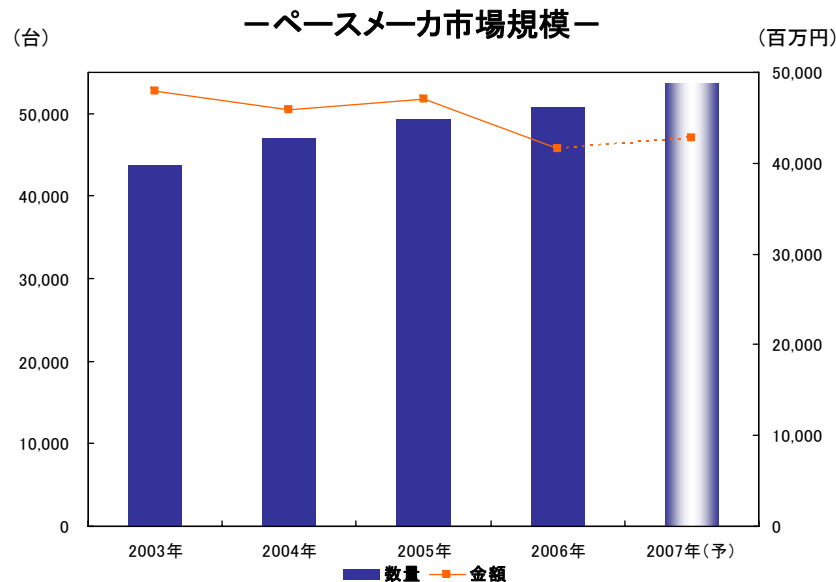
リズムデバイスの売上拡大(1)



リズムデバイスの売上拡大(2)

◆ペースメーカーのシェア回復

- ー商品自主回収(昨年6月)の影響も終息へ
- ー信頼回復からシェア回復へ営業強化
- ー市場は毎年3～4%にて成長見込(数量ベース)



※「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

リズムデバイスの売上拡大(3)

◆ICD関連商品の投入

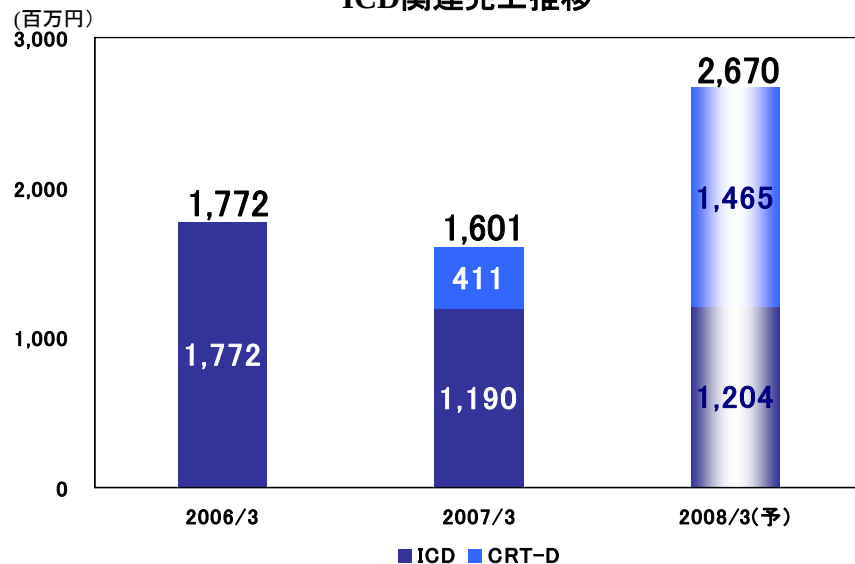
ーICD新商品「バイタリティ」を本年3月発売

・新商品でシェア回復

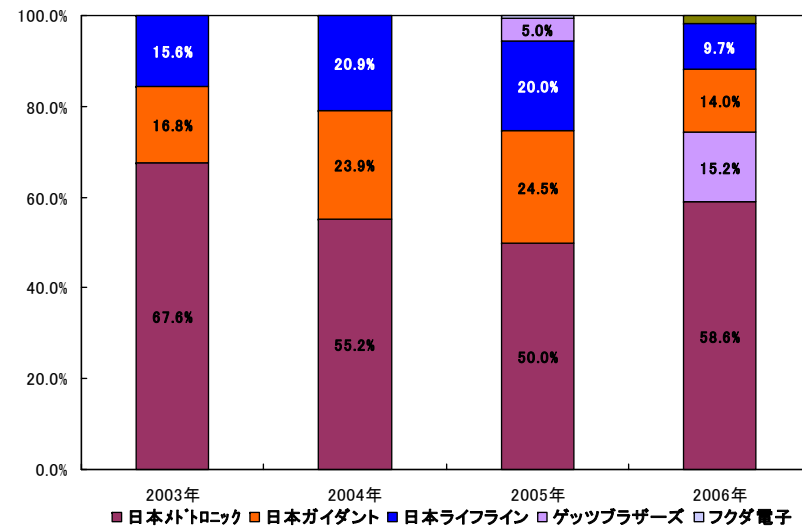
(従来より小型化 厚さ:12mm→11mm、容積:32cc→30cc)

ーCRT-D「コンタック・リニューアル4」を本年1月本格発売

ーICD関連売上推移ー



ーICD市場シェア(数量ベース)ー



※「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

JLE 日本ライフライン 株式会社

自社製造製品の拡充(1)

◆売上状況

【2007/3実績】

－売上高 3,042百万円(前期比28.5%増)

－自社製品比率 16.8%

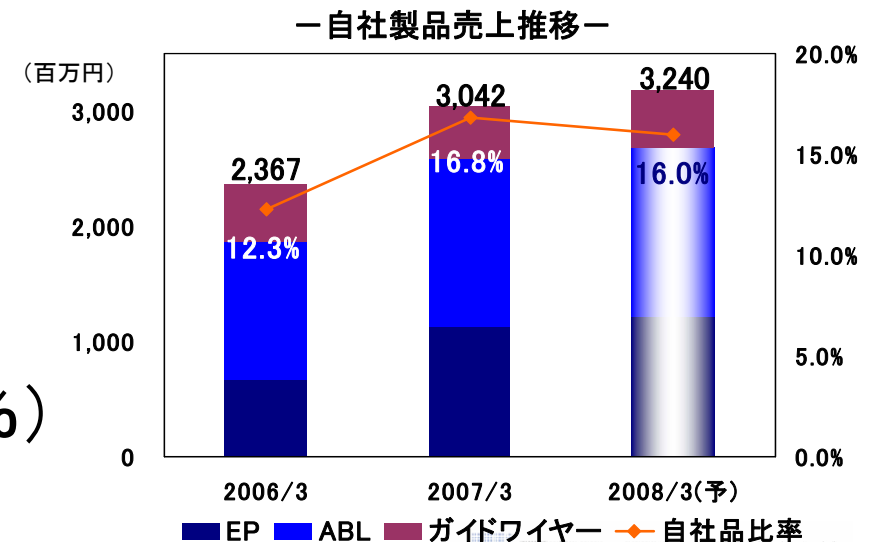
【2008/3計画】

－売上高 3,240百万円(今期比6.5%増)

－自社製品比率 16.0%

◆利益率

－粗利 自社製品 58.6%
(他社仕入れ商品 44.9%)



自社製造製品の拡充(2)

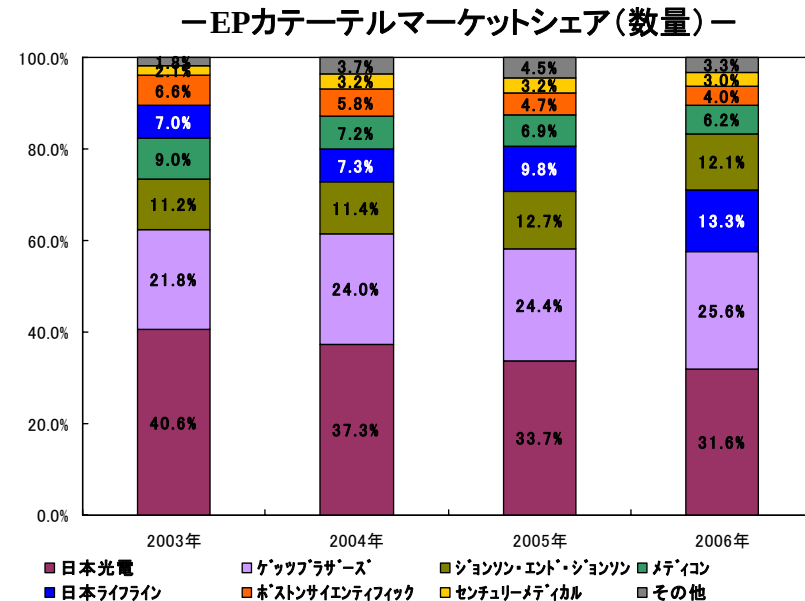
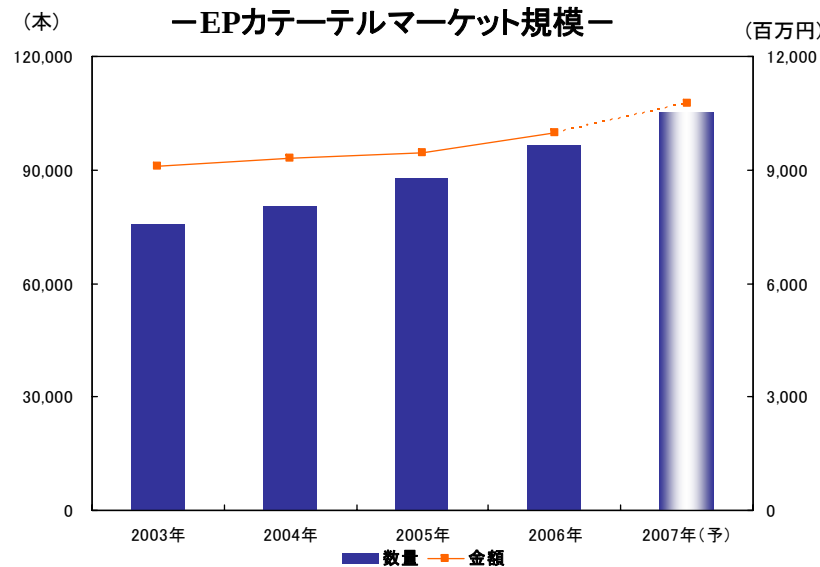
◆EP(電気生理用)カテーテル<不整脈の検査用カテーテル>

―好調に推移 07/3実績:1,099百万円(前期比46.3%増)

―新製品「EPスターリベロ」を発売(本年6月予定)

アブレーション治療の際に使用(PVマッピング用)

→トップシェアのアブレーションカテーテルとの相乗効果



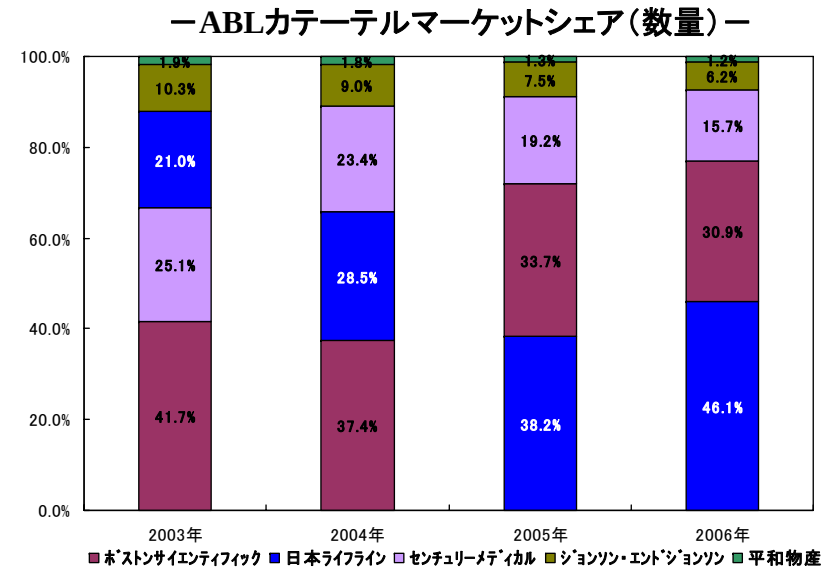
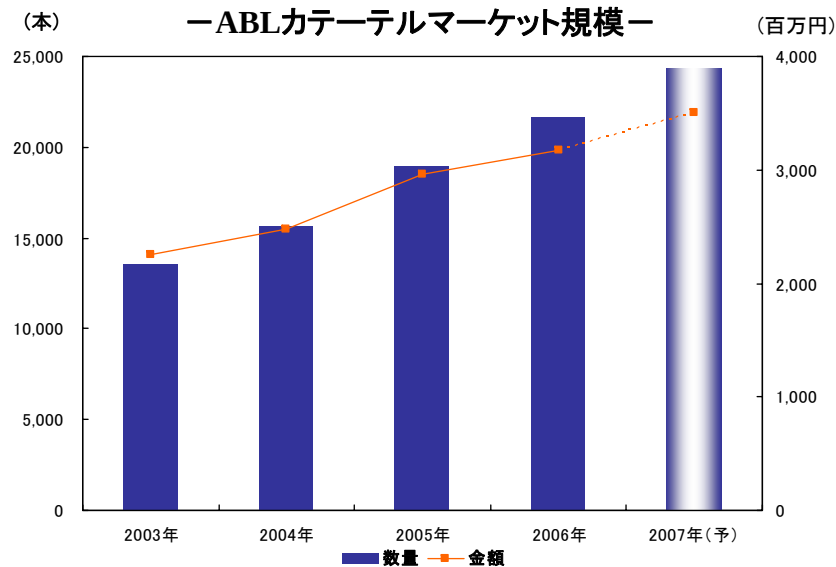
自社製造製品の拡充(3)

◆アブレーションカテーテル<不整脈(頻脈)の治療用カテーテル>

ートップシェアを維持 07/3実績:1,468百万円(前期比22.4%増)

ー心房細動等の従来薬剤による治療分野への適応も拡大

→引き続きマーケットは成長傾向



※マーケットデータは「アールアンドディ医療機器・用品年鑑2007」を基に作成
※集計期間は1～12月

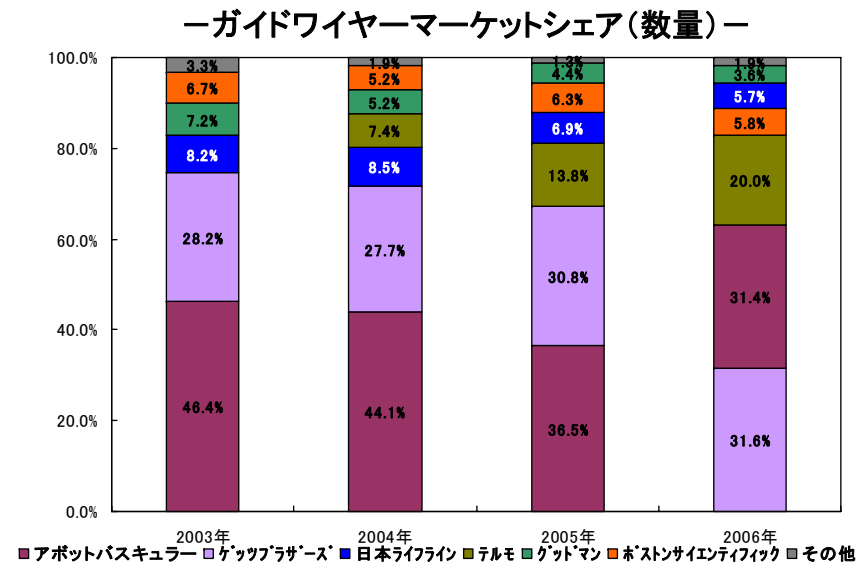
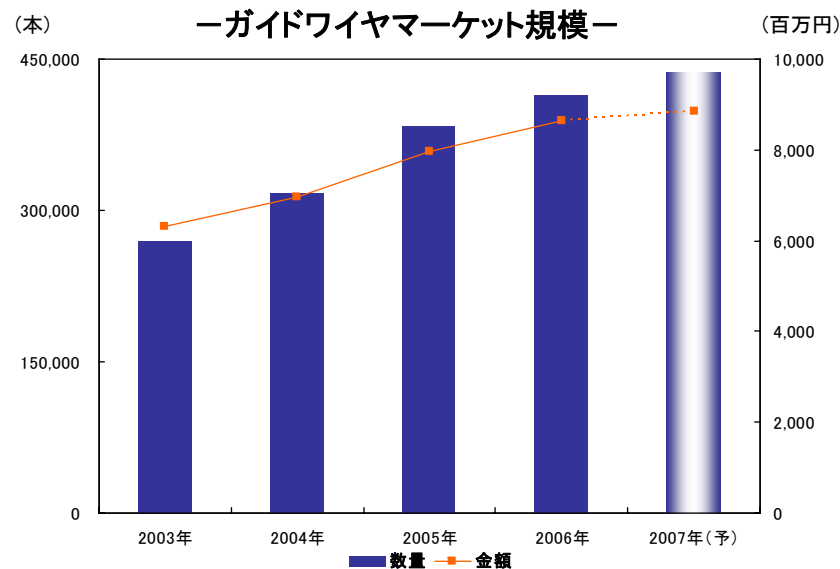
自社製造製品の拡充(4)

◆PTCAガイドワイヤー

ー新製品「アスリート・イール」を昨年10月に発売

ー関連商品のラインナップ充実

＜バルーンカテーテル、マイクロカテーテル、フィルトラップ＞
→シナジー効果による拡販



商品パイプラインの確保(1)

◆新商品の寄与

商 品	07/3売上実績	08/3動向
CRT-D	411百万円	本年1月発売→通期で寄与
アンプラッツァー	197百万円	治療施設数の増加
フィルトラップ	70百万円	本年1月発売→通期で寄与

【共通点】

- ―他社と競合しない(競合が少ない)
- ―今後も需要の増加が見込まれる

商品パイプラインの確保(2)

◆アンブラッツァー・セプタルオクルーダー (AGA Medical製)

<心房中隔欠損閉鎖器具>

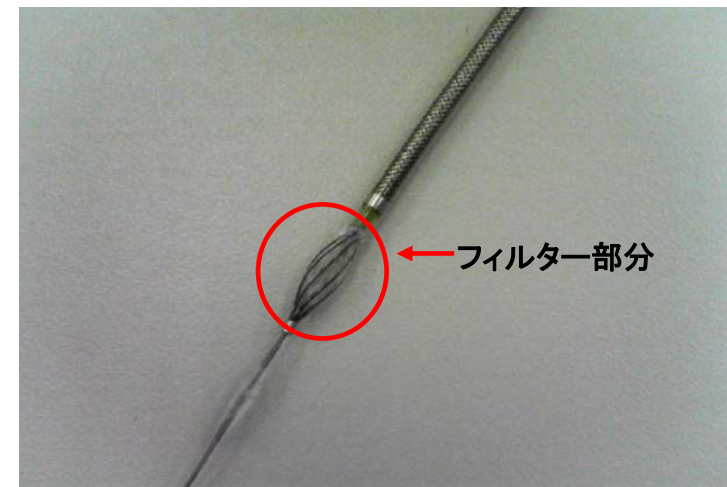
- 治療施設数の増加に伴い症例数も増加
- 同社製の先天性疾患治療ディバイスを引き続き国内に導入予定



◆フィルトラップ (ニプロ社製)

<血栓異物除去用カテーテル>

- 血管内の浮遊血栓等の血管内異物を捕捉または除去
- バスケットがフィルター型のため血流を確保できる点が特長



商品パイプラインの確保(3)

【当社の強み】

- －循環器領域における高い販売力
- －全国の医療現場とのネットワーク(ニーズ・情報が集積)

当社の強みを活かし、下記のようなニーズがあるメーカーと販売のみにとどまらない協力関係を構築

【国内外メーカーのニーズ】

- －優れた製品を持っているので日本で販売を行いたい
- －循環器領域での販売を拡充したい
- －技術力はあるので治験等をスムーズに進めたい

(参 考) 会 社 概 要

会社概要

【商 号】日本ライフライン株式会社

【代 表 者】代表取締役社長 鈴木 啓介

【本 社】東京都豊島区池袋2-38-1

【設 立】1981年2月6日

【上 場】1997年12月8日(JASDAQ)

【証券コード】7575

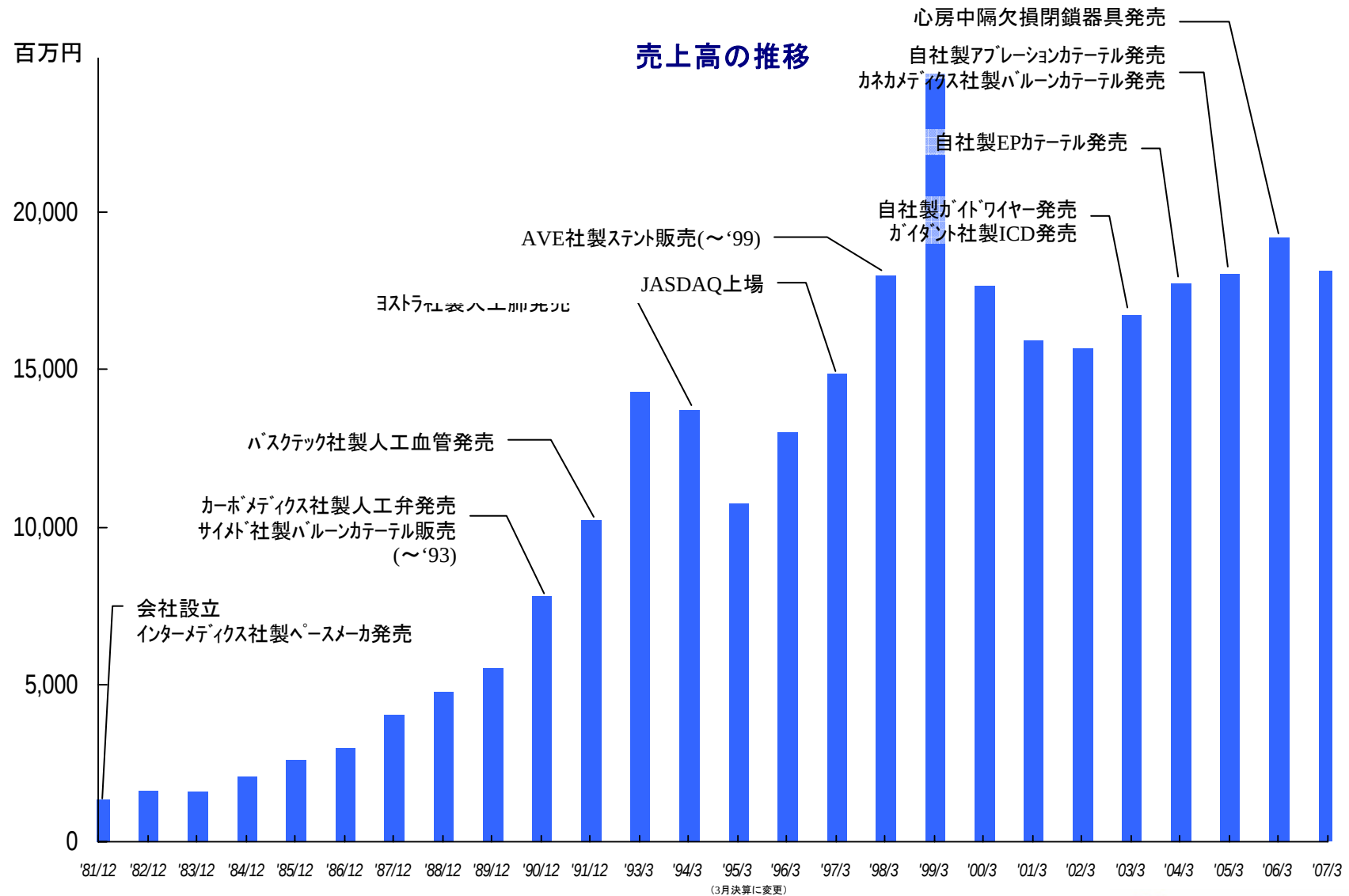
【事業内容】医療機器の輸入、製造および販売

【資 本 金】2,115百万円

【従業員数】370名(2007年3月31日現在)

【事 業 所】営業所(25)、出張所(2)、商品センター
リサーチセンター、浮間ファクトリー

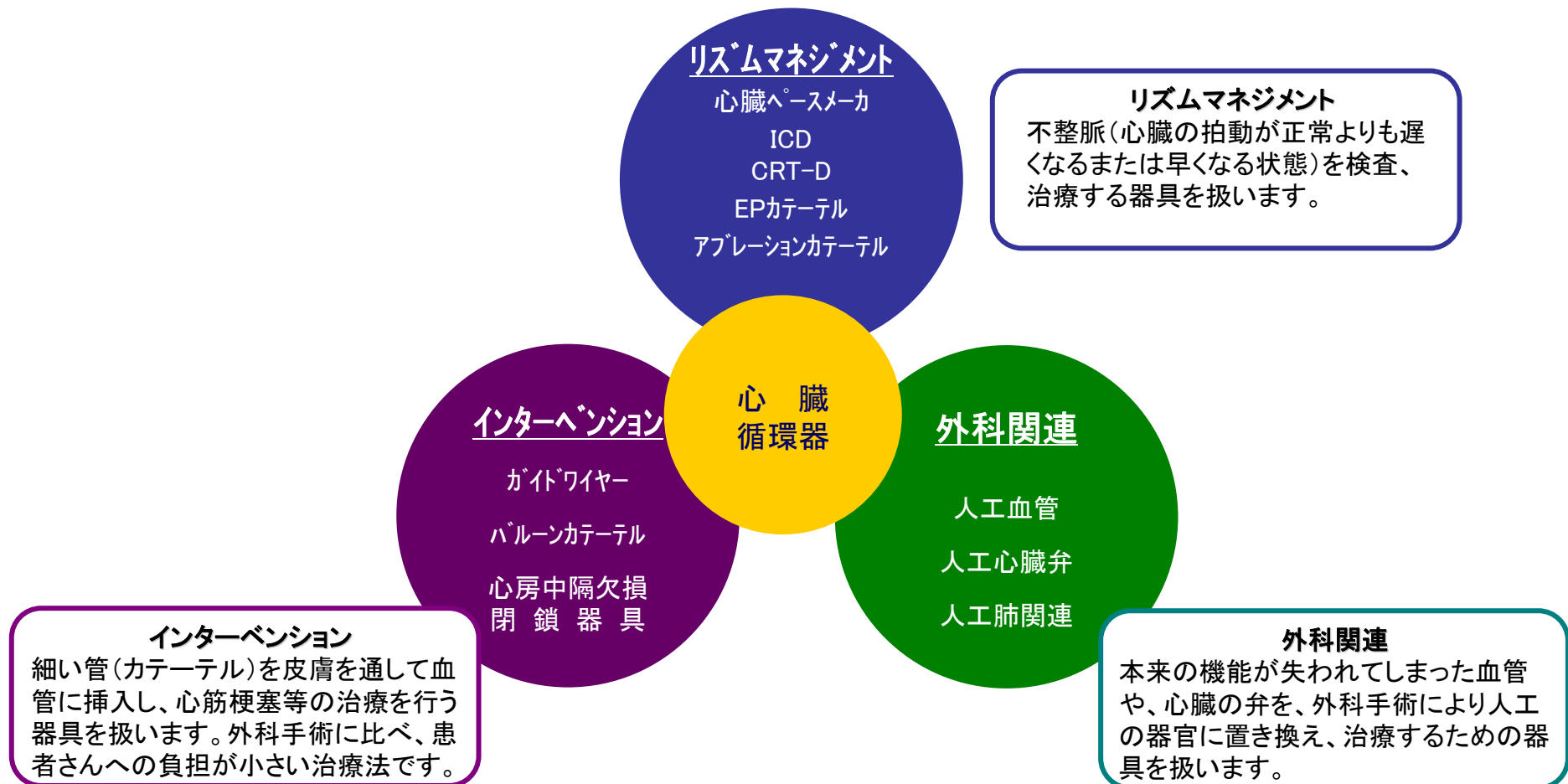
沿革



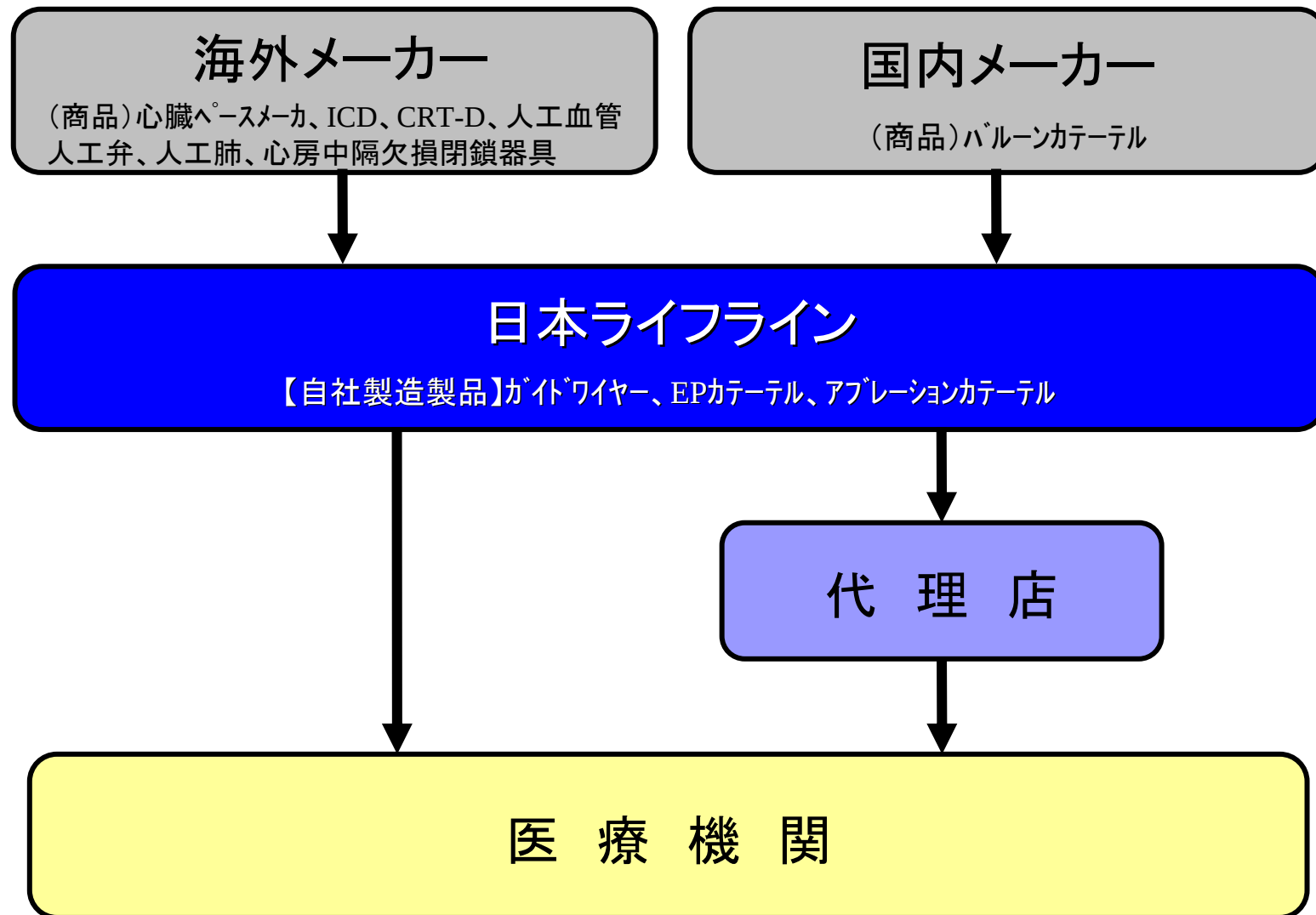
2007年5月29日

事業領域

当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムマネジメント、インターベンション、外科関連の3つに大別されます。



商品の流通経路



商品紹介ーリズムマネジメント



心臓ペースメーカー

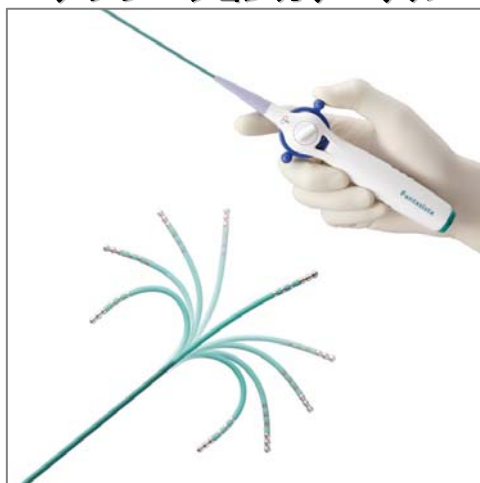
心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓の拍動が異常に早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。



ICD(植込み型除細動器)

アブレーションカテーテル



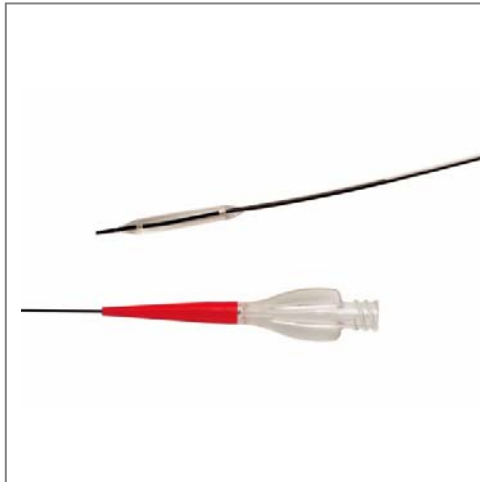
頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流により焼き切り治療します。

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

EP(電気生理用)カテーテル



商品紹介ーインターベンション



バルーンカテーテル

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船(バルーン)を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。



先端イメージ図

ガイドワイヤー



心房中隔欠損閉鎖器具

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患(心房中隔欠損症)をカテーテルを用いて治療します。

従来の治療方法である外科手術に比べ、患者さんの身体的負担も小さく、大きな手術跡も残りません。

商品紹介—外科関連



人工心臓弁

心臓内の血液の逆流を防ぎ、正しい流れを保つために機能している心臓弁が、十分に開かなくなったり、完全に閉じなくなったりした場合に、人工心臓弁に置き換え、本来の機能を回復させます。

動脈瘤（動脈の壁に瘤ができ、場合によっては破裂、出血する）などで痛んだ血管を切り取って人工血管に置き換えたり、バイパスとして使用します。



人工血管

人工弁付血管



人工心臓弁と人工血管が一体となっており、大動脈弁と弁につながる動脈を同時に交換する場合に用いられます。

心臓の外科手術を行う場合、一時的に心臓を停止させ、人工心肺装置により血液を循環させますが、その際血液中の二酸化炭素を除去し、酸素を供給する肺の働きをします。



人工肺

■ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、日本ライフラインの将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品に関し、治験に関する事項、薬事法の承認に係る事項、および発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社

経営企画室 山田

電話 03-3590-1618

Mail ir@japanlifeline.com

URL <http://www.jll.co.jp>

... for patient comfort.
